

# 水族館へ行こう!

## 京都大学白浜水族館

41

### 加藤 哲哉

わたしたち人間には男と女がある。それが当たり前だと思っっているが、生き物の世界を見渡すと必ずしもそうではない。カタツムリやミミズのように雌雄同体の生き物も多い。この場合、

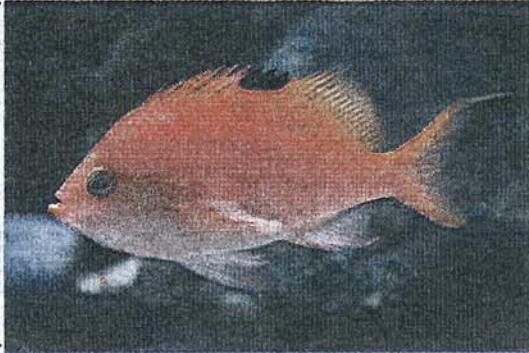
同時に雄でも雌でもあるのだが、成長に伴い雌から雄になる、もしくはその逆に性転換する生き物もある。一般にあまり知られていないが、性転換をする魚は少なくない。特にさん礁魚類に多く、ベラ、スズメダイ、ハゼなどさまざまなグループで知られる。サクラダイもその

ハタ科の魚は性転換するものが多く、生まれたばかりのときはすべて雌で、成長した大型個体はほとんど雄になる。多くの場合、雄も雌も外見はほとんど変わらないので、いつ性転換したのか

現在、白浜水族館には11匹のサクラダイがいる。当館に来たときにはすべて雌だったが、今はそのうちの一番大きい一匹が雄になりつつある。

性転換する生き物は魚以外にもいろいろ知られている。おすしのネタで甘エビと呼ばれるホッコクアカエビや、ボタンエ

## サクラダイ



背びれに黒い斑点がある雌のサクラダイ



性転換して雄になりつつあるサクラダイ(水槽番号403)

# 雌が雄になる魚

ひとつだ。サクラダイというと、春先に魚屋さんや並ぶ桜鯛(ニマダイ)と混同されやすいが別の魚だ。体長15センチ程度、オレンジ色を基調とした体色で、尾びれの両端と背びれの一部がすっくと伸びて美しい。タイと呼ばれているが意外にもクエと同じハタ科の魚だ。

知るの難しい。しかし、サクラダイの場合は簡単に分かる。ひとつの雄と雌で模様が異なっているからだ。サクラダイの雌は背びれの真ん中ぐらいに目立つ黒い斑点が1つあるのだが、雄になるとこの斑点は消え、体に桜の花びらを思わせる光沢のある白い斑点の列が2列現れる。

ビ、トヤマエビなどタラバエビ科のエビたちは、成長に伴って雄から雌へ性転換する。大きめの甘エビを買ったとれも腹部に青い卵を付けていることがあるが、これは選別したからではなく、成長するにつれて雌になるからなのである。

(京都大学技術職員)